

「感染症の流行とそれに伴う自粛生活等における、発達障害児者やその家族、関係支援者の現状と支援ニーズについての実態把握のためのアンケート調査（当事者向け）、（保護者向け）、（支援者向け）」

## 調査結果のまとめとコメント

■感染症の流行により、困っていることや、相談したいこと等について

### 【結果のまとめ】

- ・当事者向け、保護者向け、支援者向けのいずれのアンケートでも、「見通しが立たない状況で不安」、「いつもの活動が行えずストレスを感じている」という回答が特に多く選択されていました。
- ・支援を提供する側としても、余暇活動等での外出が行えない、3密を避けるために作業活動等も普段とは異なる場所、内容、時間等というように制限のある提供を余儀なくされている状況があるようです。
- ・比較的、知的障害の重たい方たちでは、いつも通りではないことへの不安という自閉症スペクトラムならではの課題を抱えているケースが大半のようですが、一方では、時間に余裕がありマイペースで安定して過ごせているという声や、普段とは異なるということをスケジュール（構造化のアイデア）で示したり、普段はなかなか時間の取れない家事スキルなどの指導に取り組んだりしたというご家庭からのコメントもありました。
- ・相談支援事業所を初め、多くの事業所が閉鎖や制限のかかる状態となり、支援が途切れている、精神的な支柱を失った状態であると言った悲痛な声も寄せられています。保護者の中には、感染を心配し、ご家庭の判断として事業所の利用を自粛しているという意見もありましたが、かといって他に行き場があるわけでは無く、また、家庭で問題なく過ごせているというわけでもないようで、非常に苦勞されているようです。

### 【コメント】

- ・乳幼児期、児童期の子どもがいる家族や、知的な遅れのある子どもがいる家族が感染し、入院などの状況となった場合、子どもの預かり先について心配する声が多くありました。短期入所等のサービスについては、緊急的な対応も含めて、利用に至る手続きを簡略化したり、支給量（日数）等についても柔軟に対応するといったことが必要になってくるのではと思います。また、サービスを提供する事業者は、今後、感染がさらに拡大するような状況になったとすれば、感染した障がいのある方や、濃厚接触者となった障がいのある方を受け入れるための感染予防を講じた体制や対応の検討、準備をしていく必要もあるのではないかと思います。
- ・入所やグループホームなどを生活の拠点としている方のご家族からは、施設での感染症対策を心配する声も聞かれました。施設側は、それなりに取り決めを行い、体制を整えてはいると思いますが、それらを利用者やそのご家族にどのように発信していくかということも大切だと感じました。ホームページ等で、対応方針や具体的な取り組み等を示しているところもあるかと思いますが、他機関の取り組みを互いに共有するような機会もあると良いのではないかと思います。

## ■感染症拡大の状況下で、新たに利用を開始した、または増やしたサービス等について

### 【結果のまとめ】

- ・特にご家族からの回答では、放課後等デイサービス事業所の利用を増やしたという回答が多くありました。学校も閉鎖になり、感染の心配はありつつも、行き場のない子どもを抱えては、ご家族の仕事も含め生活が成り立たないという状況の中で、事業所が午前から開所するなどし、それらの切実なニーズに応えていたようです。
- ・事業所サイドとしても、子どものいる職員は学校が閉鎖となったため出勤できなくなり、そのため人手が慢性的に足りず、しかし、利用ニーズは高まるという状況で、さらに、物資の不足を心配しながらも、消毒等の感染予防対応をプラスアルファの業務として行わなければならないという状況で、非常にたいへんな日々となっていたようです。

## ■感染症の流行や自粛生活にて、工夫されたことやアイデア、役に立った情報や情報源等について

### 【結果のまとめ】

- ・生活のリズムをキープする、運動不足への対応、余暇活動のアイデア等、様々に工夫され、取り組まれていることが分かりました。インターネットを活用できる方は、オンラインでの活動も含め、そういったアイデアの検索を幅広く行い、広く情報収集をされているようです。

### 【コメント】

- ・ご本人の回答の中に、「過剰な報道を見ないようにした」というものがありました。混乱する状況を回避するスキルも必要と思います。また、ご家族や支援者も含め、インターネットの情報を鵜呑みにしないという情報リテラシーの向上も必要となると感じました。
- ・一般に広まっている情報を基に創意工夫を凝らすことも可能ですが、もともと自閉症や、発達障がいのある方への支援のアイデアやグッズ等については、それらを専用にとどめるサイト（掲示板等）があり、手軽にアイデアを共有できるツールや機会があると良いのかもしれませんが。
- ・インターネットをご利用ではない方については、情報が限られ、通うところも、話をする相手も限定的となり、孤立しているような状態に陥っている方も少なくないと思われます。

## ■感染症流行の状況において、必要だと感じる、足りない等と思うサービスや機関、支援メニュー、場所等について

### 【結果のまとめ】

- ・上記にもありましたが、親や家族が感染した場合の、障がいのあるご本人の預かりの機能について心配される声が多くありました。また、学校や事業所が閉鎖している状況では買い物にも行けないという状況で、一時的な預かりをより手軽に利用できればというニーズも多くみられました。
- ・行き場がないという声が多くある中で、やはり感染症への不安も大きくあるようで、密を避けた少人数制の療育があればというような意見もありました。

- 感染症の流行や、自粛要請がなされる中で、例年の同時期と比較し、寄せられた相談件数や支援要請、問い合わせ等の増減の有無について。

#### 【コメント】

- ・支援者向けのアンケートにのみ設けた項目で、結果としては、特に増減は無いという回答が最も多くありました。しかし、他のアンケート項目の回答には、支援を求める声は少なくなく、また、ちょっとしたサービスの調整等は、非常時だからこそ、支援を求める発信をすることに躊躇し、我慢してしまう方もいらっしゃるのではないかと思います。送迎などの機会での、ご家族やご本人との日常の何気ないやり取りの中でのニーズを見過ごさないようにする意識が重要と思われます。

- オンラインでの相談、研修、コンサルテーションについて

#### 【結果のまとめ】

- ・オンラインでの相談や研修については、多くの方から、利用したいという回答が寄せられています。一方、設備等の問題を初め、相談については、内容がきちんと伝わるだろうかといった不安や、匿名で相談したいという声も多くあり、賛否両論といった様子です。

#### 【コメント】

- ・そもそもオンラインという形態について、「顔が見えないと伝わらないことがありそう」という回答があり、オンラインという形態のイメージが人によって異なり、必ずしも、ウェブカメラを使用し互いに顔が見える状態でのやり取りを指すとは限らないということに気づかされました。確かに、インターネット上のコミュニケーションのスタイルは、チャット等の文字を主体とするものもあり、さらに1対1で行うものや、グループで行うもの、メンバーとして参画するものもあれば、掲示板のように閲覧するものもあります。それぞれのスタイルにメリット、デメリットがあり、支援者はそれらをきちんと把握し、整理したうえで、支援メニューとして提供していく必要があると感じました。
- ・セキュリティに関しても匿名性を心配する声もいくつかあり、非常に重要な問題だと感じています。関連機器に関する知識の問題もありますが、新たなコミュニケーションツールを扱う上では、これまでに確立した管理体制では想定されていなかったようなリスクが表出する可能性もあります。他の機関の取り組みなどからも学び、十分に準備を行う必要があると考えています。
- ・支援者からは、オンラインでの研修について、参加しやすさ、移動距離の問題の解消等のメリットが挙げられる一方、直接的なやり取りではない形態での効果に対する疑問の声や不安についても意見がありました。グループディスカッションなど、オンラインでの実施が容易ではない内容もあり、リモート企画の限界があることは誰もが感じるころだと思えますが、メリットやその他様々な可能性も多くあると感じています。つまり、企画の内容や参加者数、参加者層、テーマ、目的、開催場所や時間等に合わせて、それぞれのメリットを活かせるよう使い分けていくことが必要なのだと思います。当事者やご家族の相談についても、非常に深刻な事態に関する相談もあれば、サービス利用に関する情報提供等もあり、やはり内容によって、オンライン対応が非常に効果的である場合と、そうでは無い場合があるのだと思います。
- ・オンラインでの相談や研修等に対して、希望されない（または迷う）方のその理由は、インターネット環境やパソコン等の設備が整わない、操作や手続きが分からないという内容が非常に多くあり

ました。これについては、中々、具体的な解決策を考案することは難しいかと思いますが、コロナウイルスの今後の見通しや、将来的な様々な支援スタイルの在り方を考えた場合、私たち自身も含め、少しずつでも準備をしていかななくてはならないのではと感じています。

## 謝辞

お忙しい中、また、まさにコロナ禍にあってたいへんな状況にて、アンケートに回答してくださった皆さまに厚く御礼申し上げます。

皆さまからいただいたご意見を、私たち発達障害者支援センターの今後の活動に活かしていきたいと思えます。また、個人情報保護に十分に配慮したうえで、お寄せいただいた声や切実な思いを、関係する機関や団体等に向けて発信し、地域の発達障がいのある方やそのご家族、支援者の方たちの実態やニーズをなるべく多くの方に届けたいと思っています。

ご協力ありがとうございました。今後とも、よろしく願いいたします。

2020年7月3日

北海道発達障害者支援センターあおいそら  
発達障害者支援道北地域センターきたのまち  
発達障害者支援道東地域センターきら星  
札幌市自閉症・発達障がい支援センターおがる